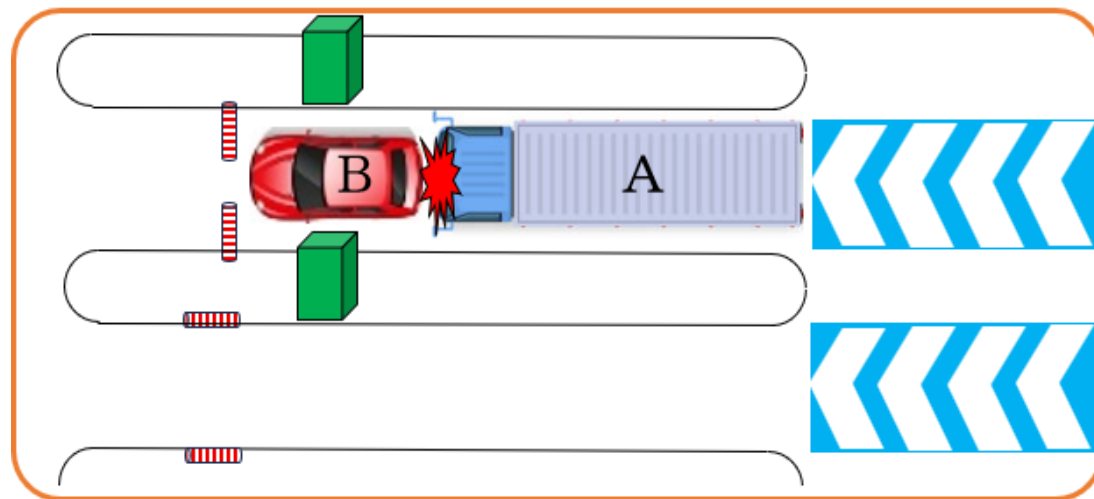


職場における 交通安全指導

Part 146

ETCレーンでの急停止車両に追突



■事故の概要

- 事故の当事者
当事者A（大型貨物車）：20歳代、男性
当事者B（普通乗用車）：30歳代、女性
- 被害状況
A：車両前部小破
B：頸椎捻挫等、車両後部大破
- 発生場所
高速道路料金所のETCレーン

事 故 状 況

Aは入社半年の新人運転者であるが、前職で大型貨物車に5年の乗務経験があり、現在は関東圏内を中心に大手ネット通販のエリア間輸送を担当している。

入社してまだ半年で経験者ということもあり、常に自分自身の会社での評価を気にして、少し無理をしてでも延着を避けるなど、時間に正確な輸送を心掛けてきた。

事故当日は、点呼を受け車庫を出発し、指定された着車時間に合わせて積み込み場所に到着したが、前車の積み込み作業が遅れており、1時間程度の待機時間が発生し、積み込みはスムーズに完了したものの、予期せぬ待機で出発が大幅に遅れ焦っていた。

目的地へは高速道路を使用し、自分の評価を気にして少しでも遅れを取り戻そうと、スピードを上げ走行していた。本線から目的地のインターチェンジで降りる際、少しでも早く行きたいという焦りの気持ちから、前を走行するBに車間距離を詰めた状態のままETCレーンに進入したところ、バーが開かず急停止したBに慌ててブレーキをかけたが間に合わず追突した。

事 故 の 原 因

事故の原因は、Aが焦りの気持ちから、車間距離を詰めた状態でETCレーンに進入し、急停止したBに対応できず追突したことです。

安 全 指 導

今回のような事故を防ぐために、運転者へ指導する際には次のことに注意しましょう。

①焦りの心理の危険性を指導する

積み込み作業の遅れや、交通渋滞等で到着時間に遅れてしまうと、少しでも遅れを取り戻そうと車間距離を詰めて走行することや、必要以上にスピードを出す傾向があり、事故に繋がるおそれがあります。

焦りの心理が運転に及ぼす危険性を十分理解させるとともに、焦った状態で運転することを避けるため、予期せぬアクシデントで出発が遅れた場合や、交通渋滞等で指定時間に間に合わない場合の連絡方法や対応を、あらかじめ運転者と共有しておくことや、乗務前点呼時等に指示することが重要です。

②特別適性診断結果を活用した指導を行う

特別適性診断の結果票に記載されている「危険感受性」や「判断・動作のタイミング」の項目で先急ぎの判定が出ている場合、焦りや急ぎの心理に陥りやすいので注意が必要です。

運転者には自分自身の性格やクセをしっかり自覚させるために、「診断結果に基づく安全運転のアドバイス」を活用し、自分の性格やクセが運転に及ぼす影響を理解させるようにしましょう。

③ETCレーン走行時の注意点を指導する

料金所での円滑な走行を実現させるためのETCですが、何かしらの理由で急停止する車があることを想定し、安全のためにETCレーンでの速度が20キロに制限されています。

また「ETC/一般」「ETC/サポート」の混在レーンでは、前車が料金の支払いのため停車することがあり、注意が必要です。前車の急停止に備え速度に注意するとともに、十分な車間距離を取るよう指導しましょう。

④コメンタリー運転の実践を指導する

運転中に自分が見た情報や判断内容を言語化することで、周囲の状況に対する意識が高まり、見落としが減少します。

「前方よし」「先行車注意」などと声に出すことは、前方の状況に一段と気づきやすくなり、交通状況を的確に把握するために有効な手段だと考えられています。運転に集中することや、平常心を保つためにも積極的にコメンタリー運転を実践するよう指導しましょう。

